

# G★U★M★B★O

## 電気自動車3 (記者: 藤田泰)

これまでみたように、自動車産業は100年に一度の大きな変革期に突入しています。私見では、将来の自動車は現在、オフィスに設置されているファックス・コピー機のような存在になると考える。つまり、本体は所有するのではなく、シェアリングを含むリースとする。走行距離に応じる課金、消耗品の配送、保守はメンテナンスパックにより賄われる。これらはすべてICTによるコネクテッドおよびキャッシュレスで行われる。

これは、相互補完関係にある、「電動化」、「自動運転・コネクテッドカー」、「シェアリングサービス」の進展により実現される。これらを統合した次世代モビリティ化が進むことにより、自動車メーカーは従来の「クルマをユーザーに販売する」というビジネスモデルから「移動サービスとしてのクルマの提供」、すなわち「モビリティ・アズ・ア・サービス(MaaS)」への転換を迫られることになる。当然のことながら、自動車関連以外の幅広い分野から多くの企業が参入する。実際には、自動車メーカーだけでは対応できないのが現実である。

これを、具体的に表すのがCASE戦略である。「CASE」とは、Connectivity(コネクテッドカー)、Autonomous(自動運転)、Shared & Service(シェアリングサービス)、Electrification(電動化)の頭文字で構成される。欧州を中心とする自動車メーカーは、これらを包括的に統合した次世代モビリティを、市場に投入する計画である。

すでに、MaaSによる移動サービスは世界的に拡大しつつある。ウーバーの「ライドシェアサービス」のほかにも、1台のクルマを複数人でシェアし、空き状況の確認・予約から車両返却後の支払いまでをスマートホンで行う「カーシェアリングサービス」、個人間で駐車場の貸し借りができる「駐車場シェアリングサービス」や「複数の交通手段をつなぎ、目的に応じて最適なルートを提示する「マルチモーダルナビ」など、世界中で様々なサービスが登場している。これらは、クルマが「個人が所有するもの」から「移動サービスを提供するもの」へのシフトを端的に示している。

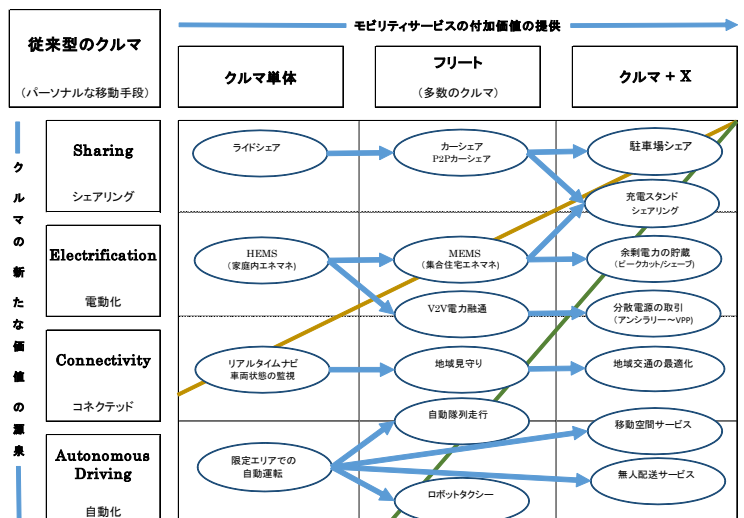
特に積極的に推進しているのが欧州である。2016年には「MaaS Global」社が設立されて、フィンランドで「Whim」というサービスを開始した。これは、目的地を検索するだけで公共交通機関とライドシェア、タクシー、レンタカー、レンタサイクルなどの組合せから最適な物を選び、運賃を月額制で支払うことが出来るアプリである。

日本においても、パーク24、三井不動産リアルティ、NTTドコモ、JR東日本などによる取り組みが本格化している。また、自動車メーカーにおいても、自らが「移動サービス」も併せて提供する方向に加速している。

かつて、ピーター F. ドラッカーは、18世紀における産業革命の本質は「鉄道の登場」であったことを喝破した。

つまり、それ以外の技術や事象は、単なる生産量の増加や産業集約を促したに過ぎない。世界の距離を短くして、大量輸送を実現させ、社会、産業、文化および戦争の形態をも変革させた鉄道こそが、真の「革命」であったとする。

現在は、第二の産業革命ともいえる大変革期である。この革命の本質が「ICT、インターネット」であることは論を待たない。他方、CASEはその申し子ともいえる存在である。私たちは、これをチャンスとして、大変革の中にビジネスの種を見つけ、育てることを求められている。



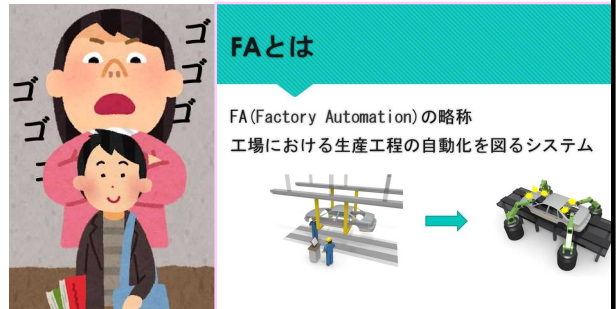
### 母校にて(記者:桑原)

久しぶりに自分の番が回ってきたのでジョジョネタについて書こうと思っていましたが、会社紹介の記事を書くようにと編集長からお達しがあり、已む無くそちらを書く事にしました。

3/2 ポリテクカレッジ浜松(私の母校)に藤田部長と2人で1時間程度の会社紹介に行ってきました。コロナの影響で中止にならないかなと内心思っていたのですが、中止にはなりません。ちなみに2日後に控えていた合同企業面談会は中止になったそうです。がっかりした反面、PR独占状態でチャンスなのではと思いました。紹介内容としては藤田部長が会社と組立機の紹介、私は電気の仕事の流れを紹介しました。人前で話すのが苦手なのでとても緊張しました。終了後、先生と話をした際こんな事を仰っていました。「保護者懇談会で近い将来エンジンがなくなるのではないかと、自動車関係の仕事は大丈夫か、そういった話題が保護者からありました。」すぐにエンジンが無くなるとは思いませんが、紹介の事例としてエンジンの話を出したのは失敗だったと反省しています。

生徒が興味を持ってくれれば良いのですが。若い世代の獲得には保護者という大きな壁が立ちはだかつてきそうです。

素晴らしい講義でした。見学希望者が現れますように。藤田



### 紹介します(記者:吉野)

今回の記事は何が良いのか、迷いながら前回と同様に『橋=Bridge』です。

紹介させていただく Bridge は、『浜松市天竜区の竜山橋』。竜山橋は、紅葉ダムの真ん中に架かる、大きな釣り橋です。聞いた事や、行った方もいるのかなあとと思います。橋長は164.4mで、幅は1.2m。1971年に出来た釣り橋で、歩道橋として造られています。紅葉ダムも一望でき、秋には紅葉も綺麗でしょう。真っ赤に塗られた橋ですので近くに行った際は、是非お立ち寄りください。



### 気になった事(記者:杉浦)

日々、新型コロナ関連のニュースが報じられております。皆様、如何お過ごしでしょうか？ 気になるります!! 新型コロナウイルス。

新型コロナウイルス(COVID-19)は、2019年11月に発見され、12月31日に世界保健機関(WHO)に報告されました。当初は中華人民共和国湖北省武漢市において患者が発見されており、武漢肺炎とも言われていました。2020年1月20日ヒト-ヒト感染が報告されたあと、3月22日までで世界中の患者が26万5千人、死亡者1万1千人以上に拡大しており終息の目途がありません。また高温多湿な東南アジア地域でも感染が拡大しており、季節の移り変わりでの鎮静化も期待できない状況です。

症状として、咳、発熱、だるさ、息苦しさ、関節痛、重症化した場合、高熱、呼吸困難に発展していきます。風邪の症状がある場合は、外出を控え、発熱が続いたり、息苦しさが発生した場合は即医療機関にかかる事をお勧めします。呼吸困難(肺炎)など重症化した場合、高齢者、患者は高い死亡率が報告されております。

現在、治療薬として「アビガン」(インフルエンザ治療薬)の臨床研究が進められております。副作用が報告されており使用には注意が必要です。また、吸引ステロイド剤は重症肺炎化への防止効果が発見されております。まだ、確定した治療法がない為、個人個人での感染予防が重要です。マスクに手洗い、周囲の殺菌、外出を控え人が集まる所へは行かないなどです。せめて、治療法、効果的な治療薬の普及までは最大の注意が必要です。

今回の感染拡大について、最悪世界中で6千万人以上の死亡者が出るとの研究報告が上がっているそうです。恐れ過ぎ、経済活動が停滞しても大きな問題があり難しい判断が続きそうです。

それでは皆様ご注意下さい。さいなら、さいなら、さいなら～。